

## (平成30年度単年度経営計画)

(公財)大学コンソーシアム京都	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

## 基本事項

所管局課	総合企画局総合政策室	本市出えん金	50,000 千円
基本財産/資本金	100,000 千円	本市出えん率	50.0 %

## 「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	存続	目標年度	-
-----	----	------	---

## 「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	「京都地域における大学間連携事業の推進」, 「加盟校の教育の質向上の追求支援」, 「「大学都市」京都, 地域の発展と活性化への貢献」を掲げて, 一層の大学振興に取り組む。
財務面	中長期的に増収を見込むことができない状況の中, 当財団の基幹事業である単位互換事業について, 学生のニーズに合わせた科目の再整理を行う一方で, 特色ある科目の開設等を行い「量から質への転換」を図るなど, 適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し, 財団の組織運営効率化や, 収支の改善を図る。
組織面	当財団がこれまで培ってきた「大学, 行政, 産業界が協力して, 大学教育研究活動を向上させ, これを地域社会と産業界へと還元していく」という設立の理念を一層前進させるため, 公益認定基準を遵守した公正な運営に努めつつ, 限られた人員の中で最大の効果が発揮できる体制づくりに努める。
その他	特になし。

## 当年度の取組目標に対する意見

所管局	当財団は, 立当初から, 「単位互換事業」や「インターンシップ事業」などの大学間連携事業を幅広く展開するとともに, 平成28年度からスタートした「学まち連携大学促進事業」などの事業を本市と連携して, 引き続き実施するなど, 本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与している。 同年度の計画においても, 事業面だけではなく, 財務面や組織面についても, 収支改善や研修制度の充実等, 健全な体制の維持に対する取組が認められる。今後も, 経費削減や事業の選択と集中による効率的な事業運営に努めながら, 大学間連携のメリットをいかした事業の展開に積極的に取り組んでもらいたい。
-----	--

## 当年度の「今後の方向性」の進捗状況及び各取組に対する総括(※)

団体	当財団の中期計画「第4ステージプラン」の最終年度となる当年度は, 到達点に向けた総仕上げとして各事業に取り組み, 概ね計画に沿った事業展開を図ることができた。財政面でも一層の経費節減に取り組んだ結果, 当期経常増減額の黒字を維持することができた。また, 大学政策委員会による議論を経て, 次期中期計画「第5ステージプラン」を策定した。
所管局	平成30年度決算では, 平成29年度に続き, 当期正味財産増減額は黒字となっており, 収支の改善に向けた取組の成果が認められる。 設立以来, 本市の全大学, 短期大学が加盟する大学間連携組織として, 本市との協働事業である「大学地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業)」や「学まち連携大学促進事業」や, オール京都で留学生の誘致及び受入体制整備などを行う「留学生スタディ京都ネットワーク」の事務局運営を行うなど, 本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与している。 一方, 大学を取り巻く状況が厳しくなる中で, 今後の状況においては, 当財団への期待はより多様化していくものと予想される。定款及び中期計画である第5ステージプラン(対象期間: 令和元年度~5年間)において, 「財団の果たす役割」に示されているとおり, 「大学間連携事業の推進」「加盟校の教育の質向上の追及支援」「地域の発展と活性化への貢献」に資する取組を更に進めていくことが求められる。

(公財)大学コンソーシアム京都	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

## (1)業務に関する取組

目標1「京都地域における大学間連携事業の推進」	
中期経営計画 における取組	当財団は、京都地域の大学間連携と相互協力を図り、加盟大学・短期大学の教育・学術研究水準向上とその成果の地域社会、産業界への還元、また、地域社会、行政及び産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化に努め、京都地域を中心とした高等教育の発展と社会をリードする人材の育成を目指している。第4ステージプランにおいて、「加盟大学・短期大学ならびにステークホルダーのニーズ・期待への対応」、「質の向上を基本とした「事業の選択と集中」の実施」に留意して事業に取り組み、当財団ならではの大学連携により、基幹事業である単位互換事業、インターンシップ事業をはじめとする事業を着実に推進してきた。
当年度目標	当財団で独自に策定している中期計画「第4ステージプラン」の最終年度となる中で、当初掲げた目標に対する到達点を見据えつつ、加盟大学等関係機関のニーズの確認、大学間連携組織として求められる事業について常に意識、確認しながら、単位互換事業やインターンシップ事業等の基幹事業、生涯学習事業（京カレッジ）及び留学生支援事業等の新規事業について、第5ステージプランでの展開の検討を含めて着実に取り組む。
当年度結果 (※)	単位互換事業については、量から質への転換を図っており、「世界遺産PBL科目」に続く新たなPBL科目の開設に向けて各事業者と協議を重ね、2020年度からの実施に道筋をつけることができた。インターンシップ事業では、事業開始から20周年の記念企画として、10年以上にわたり実際に受入を継続いただいた36団体へ感謝状を贈呈するとともに、修了生OBOGと受入先を講師に招き、2018年度プログラム修了者受けの進路相談会を実施した。しかしながら、企業・団体による採用を目的としたワンデイ型のインターンシップの増加が顕著となった影響もあり、約5ヶ月にわたる講義と実習で構成されたプログレスコースへの学生参加と受入企業数が減少した。

指標1	京(みやこ)カレッジ出願者延数 (単位：人(延数))							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	1,500		1,680		1,680		1,680	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	1,679	1,679	1,680	1,422	-		-	

指標2	インターンシップ（プログレスコース）受講者数，実質受入団体・企業数 (単位：上段：人，下段：社・団体)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	65		50		50		50	
	10		10		-		-	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	37	31	50	19	50		50	
	10	10	10	6	-		-	

(公財)大学コンソーシアム京都	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

<b>目標2 「キャンパスプラザ京都の利用促進(講義室, 演習室, 会議室等の施設貸出)」</b>	
<b>中期経営計画 における取組</b>	<p>キャンパスプラザ京都の指定管理者として、京都地域の大学・短期大学等が加盟する財団として、市民と大学の交流拠点として求められるサービスを、最適なコストで提供できるように、更なる効果的な運用を行う。</p> <p>京都駅前の交通至便な立地条件を活かし、大学関係者の利用はもとより、一般の利用者を確保できるよう広報を行い、年間を通して安定した稼働率の維持と施設使用料を確保する。</p> <p>キャンパスプラザ京都は平成12年の開館から平成30年で19年目を迎えた。施設や講義室等の機器も老朽化してきており、改修やリプレイスが必要となってきた。これら改善を適正な時期に行い、利用者の利便性や快適性を図ることで、利用促進を目指す。</p>
<b>当年度目標</b>	<p>キャンパスプラザ京都は、施設条例に定める、大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために設置された。</p> <p>今年度も引き続き、この施設運営の理念に基づき、単位互換事業や生涯学習事業（京カレッジ）で積極的に本施設を活用するとともに、指定管理者として、講義・演習・会議室等の適切な施設提供並びに保守管理に努める。</p>
<b>当年度結果 (※)</b>	<p>当年度目標に掲げたとおり、単位互換事業や生涯学習事業をはじめとする事業で積極的な活用を行った。また、会議室等の施設提供に関しては、サービスの質の向上を心掛け、高い稼働率を維持しており、使用料収入は前年度より増加した。</p> <p>なお、竣工から20年近くが経過し、建物、設備とも更新や大規模な修繕が必要な個所が随所にみられるため、長期修繕計画を作成し、中長期的な視点に立って優先順位を付けながら、京都市と協議相談の上、修繕を実施することとしている。当年度は、避難はしごのリプレイスを実施し防災設備の強化を図った。</p>

指標	施設の使用料				(単位：千円)			
	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
中期経営計画	100,000		115,061		115,061		115,061	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	106,197	103,043	115,061	104,416	-		-	

(公財)大学コンソーシアム京都	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

## (2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備考欄
	予算	実績(※)	予算	実績	予算	実績	
経常収益	417,669	412,349					
経常費用	416,290	399,467					
当期経常増減額	1,379	12,881					
当期正味財産増減額	1,379	12,881					
資産合計	-	508,527					
負債合計	-	47,256					
正味財産	-	461,270					
うち累積損益額	-	361,270					

## 目標「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財政運営を図る。」

中期経営計画 における取組	<p>収入については、当財団の経常収益は会費収入と事業収入を基本としている。会費収入については、ほぼ現状維持にあるが、今後、18歳人口の減少に伴い会費収入への影響が懸念される。事業収入については、事業の見直し等に伴う収入減はあるが、生涯学習事業の受講者増に伴う収入増により、ほぼ横ばいとなっている。近年、事業の拡大よりも質の充実に向けた見直しを進めていることもあり、収入について自然増が望めない現状にある。</p> <p>中長期的には増収を見込むことが困難な状況下では、適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し、財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。</p>
当年度目標	財務状況は比較的安定しているが、大幅な収入増は見込めない状況に変化はない。引き続き、事業の選択と集中、必要経費の見直しを行い、健全な財務運営に努める。
当年度結果 (※)	前年度に引き続き経費節減に努め、黒字決算を維持することができた。また、将来的に大きな資金需要が見込まれる教育設備・機器等の更新に備え、遊休財産の一部について積立金により資金確保を行った。

指標	収入合計, 支出合計 (上段: 収入, 下段: 支出)							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	374,820		431,640		431,640		431,640	
	374,601		419,964		-		-	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	452,238	448,597	431,640	426,322	431,640		431,640	
	432,562	440,889	419,964	435,710	-		-	

(公財)大学コンソーシアム京都	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

## (3)組織に関する取組

目標 研修の実施による職員の資質向上	
中期経営計画 における取組	職員としての資質向上を目的とした、当財団主催の研修を実施するとともに、自己研修補助制度の浸透を図る。
当年度目標	計画的な職員研修の実施，研修補助制度の積極的な活用により，職員の資質向上を図る。
当年度結果 (※)	計画的な職員研修の実施により，職員の能力向上だけでなく当財団職員としての一体感の醸成を図った。また，研修補助制度が職員間に浸透してきたことで制度利用者が増えつつあり，有期雇用職員の契約期間満了後のキャリア形成を見据えたサポートにも注力している。 また，限られた人員体制の中で最大限の効果が発揮できる職員配置により，業務量の分散，効率化に努めた。

指標	研修実施回数				(単位：回)			
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	-		8		8		8	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	8	8	8	11	-		-	